

日常会話における“V (O) 了”の非典型的な変化について

—談話分析と認知言語学の視点から—

胡良娜 (コ リョウナ)

東京外国語大学・博士後期課程

0. はじめに

文末の“了”は新しい事態の出現や変化を表し、新情報を伝える機能を持つ語気助詞である（例えば、「下雨了」「雨が降っている」の場合、話し手は「雨が降っていない」から、「雨が降っている」という新事態の変化を発見し、それを新情報として聞き手に伝える）（刘月华他 2001 要約）。しかし、日常会話では、話し手はある事態の変化を既知情報として聞き手に伝える場合でも、“了”を使うことがある。

(1) a. 我想出去玩儿。（（雨が降っていても）ちょっと外で遊びたい。）

b. 下雨了。（雨が降っているから、（濡れるよ）。） （発表者による）

a は雨が降っても出かけたいと思っている。一方、b は“V (O) 了”（“下雨了”）を理由・論拠として用い、自分の（雨の日の外出が良くない）観点を主張し、ある目的・願望（雨に日に外出して欲しくない）を実現する。本発表は、会話分析と認知言語学の視点から、このような既知情報として聞き手に伝える非典型的な変化を表す“V (O) 了”を対象として考察する。

1. 先行研究

先行研究には、談話における文末助詞“了”について、様々な議論がある。

- 1) 文末助詞“了”が表す語気は、話し手がある状況の発生や存在の発見をとおして、自身の認知環境が更新されたことを確認したという心理過程の反映である（杉村 2006 要約）。
- 2) 時には話し手と聞き手は共にある事実を分かっているが、話し手は相手にこの事実に対するコメントが知られていなく、自分の考え方を理解されないと予測している。この場合の文末“了”は新状況に属する（張 2001 要約）。
- 3) “了”は新しい“知态”「認識」を表し、この新しい認識を相手に伝える。“知态”は認識だけではなく、文脈により、推測、推断、評価なども含んでいる（沈 2009 要約）。

先行研究では、“了”の表す客観的な事実の変化、或いは認識上の変化が、いずれも新情報としてまとめられている。しかし、日常会話では、話し手は“V (O) 了”を既知情報として聞き手に伝えることがある。この場合の“V (O) 了”は話し手が聞き手に対して達成したい、何らかのコミュニケーション上の目的を実現するために使われていると予測できる。

2. 研究方法

“V (O) 了”の使用に関する最近の動向を掴むために、近年の日常生活をテーマとした 8 本の人気ドラ

マ¹を対象とし、手作業で“V (O) 了”を集める。まずは、“V (O) 了”を典型的な変化・新情報と非典型的な変化・既知情報に分け、会話における割合を考察する。次に、認知言語学・会話分析の視点から、“V (O) 了”が具体的にどのように使われているかを分析する。

3. 考察

3.1 “了”の前景化機能と既知情報の“V (O) 了”

収集した全 2310 例の“V (O) 了”のうち、新情報の“V (O) 了”は 2120 例(92%)あり、既知情報の“V (O) 了”は 190 例(8%)あった。“了”は前景化の機能を持ち、文末に“了”を加えることによって、その動作行為を談話全体の中で図として際立たせることになり、結果として文脈や談話全体の中で事態を前景化(foregrounding)させることに繋がるのである(三宅 2010 要約)。従って、“了”の前景化機能により、話し手は既知情報の“V (O) 了”を焦点として改めて提起できる。既知情報の“V (O) 了”の 190 例はその機能に基づき、以下の三つに分類することができる。

1) ある事態の変化に気づき、その変化を認め、或いは理解したことを聞き手に示す。(76 例、40%)

話し手は聞き手の知っている変化に気づき、その変化を理解した、或いは認めたことを聞き手に示すために、その変化を前景化させて“V (O) 了”を用いることがある。

(2) 呦，买菜了。(「あら、野菜を買った」に気付いたよ。)

(3) 罗律师，你们能不能做些让步呢？(绝无可能) 那就是要打官司了。

(「罗先生、少し譲歩してくれない？(ありえない) じゃあ裁判になるしかない」と理解したよ。)

(4) 对，的确是我错发邮件了。(「そう、確かにメールを間違えて送った」と認めたよ。)

2) ある事態の変化を主張・命令・依頼するための理由・論拠として利用する。(90 例、47%)

話し手と聞き手が共にある事態の変化を知っている場合、聞き手と異なる意見を主張し、或いは聞き手に命令・依頼するための理由・論拠として、話し手がその変化を前景化させて提起することがある。“V (O) 了”は「...から、自分が正しいと主張する/...するようにと命じる」のような文脈に使われる。

(5) 可是他不爱你了，所以我也不爱他。

(「でも彼はもうママを愛していないから、もう彼を愛していない」と申し立てた。)

(6) 别想他了，你已经离婚了。

(「もう離婚したんだから、彼のことを忘れなさい」と命じた。)

3) ある事態の変化を利用し、話題を提起する。(24 例、13%)

話し手は“了”を用い、聞き手と共に知っている事態の変化を前景化させ、話題を提起する。

(7) 你看，朵朵不在，朵朵现在离开我们了。

¹ 《奋斗》、《幸福来敲门》、《裸婚》、《匆匆那年》、《欢乐颂》、《离婚律师》、《小别离》、《微微一笑很倾城》の合計約 208 時間の会話を記録した。

(「ああ、娘はいない、もう私達から離れているわ」という変化を前景化させ、娘の話 시작했다。)

(8) 对, 你还记得吗, 那时候你还闹小情绪了, 不想上场呢。

(「そう、覚えてる、あの時君は拗ねて、入場したくなかったんだよ」における「あの時君が拗ねた」という変化を前景化させ、昔の話 시작했다。)

3.2 発話内行為²から見た“V (O) 了”

話し手が“V (O) 了”を新情報、或いは既知情報として聞き手に伝える意図について、明らかにするため、本発表はアメリカの哲学者 J.R. サール (Searle³) による発話内行為の分類を利用し、集めた“V (O) 了”を五つに分類した。表 1 で示す。

表 1: 日常会話における“V (O) 了”の発話内行為

発話内行為	典型的な変化: 新情報	非典型的な変化: 既知情報	合計:
A. 断言的	1599	190	1789 _(間接発話行為: 280)
B. 指示的	315	0	315
C. 言明的	149	0	149
D. 表出的	49	0	49
E. 宣言的	8	0	8
合計:	2120	190	2310

表 1 に示すように、“V (O) 了”の発話内行為は以下の A~E に分類できる。

A. 断言的: ある命題を真実として述べる (陳述・主張など)。(1789 例、77%)

(9) 妈, 出大事了。(「お母さん、大変なことになったよ」と伝える。)

(10) 我当然没问题了。(「もちろん問題ないよ」と申し立てる。)

ただし、事実の陳述の形をとっている発話中で、指示的な発話行為の働きの代わりにしている間接発話行為 (indirect speech act) が 280 例あった。

(11) 哎呀, 快点, 快点, 要下雨了。(「もうすぐ雨が降るから、早くしろ」と命じた。)

(12) a. 家里没奶粉了啊。(「もう家にミルクが無くなったから、買って下さい」と依頼した。)

b. 看见了, 明天再买吧 (「わかった、明日また買おう。」)

B. 指示的: ある行為をさせようと試みる (命令・依頼・質問など)。(315 例、14%)

² 本発表は、発話行為 (Locutionary act) は発話内容を伝える行為である一方、発話内行為 (Illocutionary act) は発話内容を伝えて聞き手に働きかける行為であると区別している。

³ J.R. サールの発話内行為の分類は小泉保 (1995) を参考にしている。

(13) 快起床了。(「早く起きなさい」と命じた。)

(14) 妈，咱回家了。(「お母さん、おうちに帰ろう」とお願いした。)

C. 言明的: 将来における行為の実行を言明する (約束・忠告・宣誓など)。(149 例、6%)

(15) 家里就交给你了。(「家のことを君に任せるね」と約束した。)

D. 表出的: 感情を表明する (感情・遺憾・祝福など)。(49 例、2%)

(16) 这次真的谢谢你/麻烦你了。(「今回は本当にありがとう/迷惑をかけたね」と感謝した/謝った。)

E. 宣言的: ある習慣に基づき、事態に直接変化を及ぼす発言 (布告・宣言など)。(8 例、1%)

(17) 今天你们二位就正式结为夫妻了。(「今日から君達は正式に夫婦になった」と宣言した。)

4. まとめと今後の課題

本発表では、先行研究と異なり、“V (O) 了”は新情報だけではなく、既知情報を伝える機能も有していることを主張した。更に“了”の情報伝達の機能を発話内行為から分析した。

新情報を伝える“V (O) 了”は、断言的・指示的・言明的・表出的・宣言的などの機能を持った発話内行為を行なっている。一方、既知情報を伝える“V (O) 了”は、断言的という発話内行為を行なっている。話し手が“V (O) 了”を用い、既知情報を伝える理由は“了”の前景化機能により、ある事態の変化を焦点として提起できるからである。

従って、日常会話における“V (O) 了”は、新情報の伝達だけではなく、“了”により文脈や談話全体の中で事態を前景化し、話し手が聞き手に対して達成したい、何らかのコミュニケーション上の目的を実現するために多く使われていると考えられる。

発話内行為は時に言語表現の形をとって明示されるが、事実の陳述の形をとっている発話の中で、指示的な発話行為の働きを代わりをしている間接発話行為が 280 例あったため、それについて今後詳しく分析したい。

参考文献

小泉保 (1995) 『言語学とコミュニケーション』東京: 大学書林.

刘月华、潘文娣、故韡 (2001) 『实用现代汉语语法 (增订本)』北京: 商务印书馆.

三宅登之 (2010) 「“了₁”と“了₂”の相違点とその認知的解釈」『中国語教育』第 8 号 中国語教育学会.

杉村博文 (2006) 「句尾“了”の语义扩张及其使用条件」『汉语教学学刊』第 2 辑, 北京大学出版社.

肖治野 沈家煊 (2009) 「“了₂”的行、知、言三域」『中国语文』2009 年第 6 期 (崔希亮主编(2011)『认知语法与对外汉语教学论集』北京: 北京语言大学出版社.)

张斌 主编 (2001) 『现代汉语虚词词典』北京: 商务印书馆.